

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171500671		
法人名	医療法人社団 森生会		
事業所名	グループホーム「もりの家」ユニット1		
所在地	北海道茅部郡森町字上台町330番地85		
自己評価作成日	平成28年11月9日	評価結果市町村受理日	平成28年12月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0171500671-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0171500671-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成28年11月29日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同法人の病院が隣接しており、健康管理や緊急・急変時の対応等、医療面に関して迅速な対応をしていただくことで、医療との連携がとりやすい状況の中、安心した生活を送る事ができるよう配慮しています。  
また、日々の生活に少しでも楽しみを持って過ごして頂ける様にレクや行事等を増やしたり、近隣の幼稚園や高校・町内のボランティアとの交流やサロンの参加等を行いながら地域との交流等も行っています。  
その他には職員のスキルアップを図るために、キャリアアップ助成を施設として実施しながら資格や研修等の参加やアセッサー制度を取り入れ、今後は職員のレベル認定を取れるように努めていきます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はJR森駅より約3km程の郊外で、近くには鳥崎八景があり四季折々の変化が感じられる自然豊かな環境の中に立地している。同敷地内にある医療機関が運営母体で、医療との迅速な連携が家族に安心感を与えているのが特徴である。職員は資格習得やキャリアパス段位制度に挑戦したり、介護技術のスキルアップに努め、就労環境の整備にも力を注いでおり、有資格者の多い事業所である。管理者は系列のグループホームの管理者と協力し、渡島管内の全高校を訪問してパンフレットを配布したり、事業所の説明を行うなど、職員の確保に努力している。今後は、中学生を対象にキャラバンメイトの実施を検討している。利用者は職員の笑顔に癒されながら地域と交流を重ね穏やかに暮らしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設全体で話し合って決めた施設理念とユニット毎に決めたケア理念を作り施設内に掲示や、忘れてもすぐ確認できるように記載された物を身につけるようにしている。	利用者のニーズ、事業所の状況の変化に伴い、従来の理念を具体化して「笑顔」を主体とした理念に見直している。職員はこれを共有し、サービスを提供している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内にある保育園やボランティアの慰問を依頼し、交流できる機会を設けている。また、ふれあいサロン(社協主催)に利用者様と共に参加し地域との交流を図っている。	管理者と職員は町内会行事に参加している。高齢者の多い地域なので暮らしの不安や心配事などの窓口として事業所のチラシを配布したり、保育園児やボランティアが訪れるなど地域とは交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて現在の近況や活動を話す機会や町内会の活動へ参加した時等に、話す機会を作っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の様子を写真や説明を通して、お話をさせて頂き、そこで出たご意見等を行事や日々の生活に反映出来る様に努めている。	運営推進会議は、包括支援センター、社会福祉協議会、町内会、地域の方々の参加で定期的開催している。入所状況、事故報告があり、近況報告と職員研修は写真を用いて説明している。	運営推進会議は、事業所の報告にとどまらず外部評価なども議題にして参加者の素直な意見をもらい、全家族に議事録を配布するなど、双方向的な会議になることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や地域包括ケア会議等を通じ、円滑な連携が図れる様に努力しています。	町担当者とは、空き室状況の問い合わせ、必要に応じて相談やアドバイスがあり、室長が介護保険認定審査会委員として活躍するなど協力体制を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は防犯上、夜間のみ行っていません。身体拘束については、やむを得ず行う際には御家族への説明・了承の上、同意書を書いた上で行っています。	契約時に身体拘束廃止について事業所の方針を家族に説明し同意を得ている。マニュアルを使用しての内部勉強会や外部研修会に参加した職員が伝達講習を実施して禁止となる具体的な行為を全職員が理解し、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルや施設内外の研修・勉強会を通じ、理解の共有を図りながらケアに従事すると共に、職員同士お互いに気をつけ注意しあえるような環境作りを目指し日々頑張っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や主任等特定の人に関しては施設外研修等に参加はしているが、現在制度を利用する利用者様もいないため、周知までにはいたっていない。今後の課題です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に利用者様や御家族様に対し、契約内容を理解して頂けるように分かりやすい表現をするように心がけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置、面会時や毎月お送りしているお便りなどでも現在の様子をお伝えしているが都度相談等を通じ、改善等に努めている。	年1回、家族アンケートを実施して意見や要望の入手に努め、職員は面会時や電話での会話から思いを汲み取り運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個人面談等、職員と話をする機会を設けながら、職員の意見・提案等を聞きながら対応するようにしている。	職員全員は、年間目標管理シートに年間の目標の計画から、実施状況、自己評価で達成度を見極め、室長との個別面談の中でさらに次年度の目標を設定が出来るように就労環境を整備し、質の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	係の活動等、職員本位で計画や実行して貰う事によってやりがいや向上心が生まれるような取組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来る限りの外部研修の参加や施設内での学習会の実施やOJT活動を通し新人教育計画の作成・実施。資格等を取るときの費用の助成等。来年度からはキャリア段位制度の活用によりレベル認定を推進する予定です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地区のケアマネ連協の活動やGH協会や近隣地区の連協等の研修会の参加や懇親会などの参加により交流等を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談やアセスメント等により、本人様と御家族様との気持ちのズレを少なくしながら少しでも利用する本人様の思う生活が出来るように対応するよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の説明や、面会時の声掛けや電話でのやり取りなど御家族様からのニーズや相談に随時対応出来る様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にも緊急時等の対応方法も事前確認は行なっているが、その時々で連絡を取りながら対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様にも、日常の家事で出来る部分のお手伝いをお願いしたりしながら共同生活している。支えあっている関係を構築できるように努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事情により中々面会の出来ない御家族様もいらっしゃるので、毎月お送りしているお便りでの報告や行事等の参加のお誘いや面会時に近況報告をする等を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外部からの面会は随時受け付けていると共に施設ユニットや法人内での昔なじみのある利用者様同士の交流が図れるように支援や町内への外出や受診対応時等でも昔なじみの人と交流が図れる様に努めている。	知人友人の面談は家族の確認を得て対応している。病院の待合室や自宅近辺までのドライブの時に知人との再会があり、外泊や墓参りなどの要望には柔軟に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の交流状態を見ながら、気の合いそうな人と近くに置き交流を図りやすくしたりスタッフが間に入って橋渡しの事が出来るように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、御家族(本人)や受診先(入院先)等からの問い合わせがあった時に連携を図りながら調整を行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中からも情報を収集したり、自分で伝えられない利用者様の場合は御家族からの情報収集や、ケア時に表情等小さな反応も見逃さないように努めている。	事前に利用者の生活歴や生活習慣などの情報と意向を把握し、日々のケアの中で動作や表情から思いを察し、本人の視点に立って検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々のコミュニケーションや御家族からの情報集等、他の施設等から来た利用者様の時は前施設の職員からの情報収集等に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、バイタルチェック表や伝達ノートなどを使用しながら日々の状況や変化を共有出来るように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人や御家族からの意向・要望やモニタリング・アセスメントでの結果を反映出来る様にケアカンファレンス等で意見交換をしながらケアプランの作成に努めている。	担当職員の記録や情報を基に本人、家族の要望を取り入れ、更新時にはかかりつけ医の意見を参考にしながら、モニタリング評価表で解決すべき課題や目標を定め、ケアプラン会議で検討し、現状に合わせて介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿ったケアの実践やケース記録への記載。また、大事な要点などは連絡ノートや申し送り等で職員間での情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医だけではなく、その都度本人や御家族と相談をしながら他科受診の対応をすることや、相談等に関してお手伝い出来る所は柔軟にお応え出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協で実施しているサロンへの参加や函館等への食事やドライブ等、利用者様の要望や施設に閉じこもりにならないように配慮している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の精神科が隣接されており、月2回の往診、24体制での特変時の対応が可能。また、本人・御家族様からの希望時は他の医療機関への受診も柔軟に対応している。	本人、家族の意向に添ったかかりつけ医にしている。本院から月1回から2回の往診があり、通院は歩いて行くことができる。遠方受診は職員が代行し、結果を家族に報告している。夜間体制も整えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、施設自体への看護師の配置はなされていないが、隣接の病院への看護師と24Hでの相談や対応が出来る体制を取っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	隣接の森の里病院の医療連携室と連携し、必要な医療等のアプローチや利用者様の個人情報等を御本人や御家族様の了承を得たのち情報提供を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した時の対応や体制等について説明し同意は頂いているが、その様な状態になる場合は医師・看護師と連携を取りながら対応しながら、再度御家族に連絡及び相談をしながら対応するよう努めています。	重度化に伴う事業所の方針を契約時に家族に説明して同意を得ている。利用者の状況の変化に伴い、家族の意向を再確認しながら、チーム全体で取り組む体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・緊急時のマニュアルを作成し、御家族や管理者への連絡やドクターコール、救急車の手配等が素早く出来る様に努力している。また町内等で行われる救命講習等にも積極的に参加するように努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、防災訓練を近隣の町内会にも参加の願いをしながら実施し、入居者様が安全に避難出来る様に訓練をしています。また、今後は町内会への防災訓練にも参加し町内会との連携を強化して行きたいと思っている。	年2回、町内会役員が参加しての夜間想定訓練は出火発見から消防署、職員に至るまでの通報、安全な場所への誘導を利用者が参加して実施している。発電機などを含めた備蓄も完備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けや対応等、気をつけながら行なっているつもりですが、まだまだ不十分だとは思っているが、施設内で声掛け等の勉強会を行ったり、職員間で注意し合える環境作りをしている	年間目標に掲げている接遇の中で、利用者にとって一番の良い対応を意識し、ゆとりをもって接することを職員全員が学び共有し、プライバシーに配慮したケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通の取れる利用者には都度声掛けしながら意思確認を行いながら支援をし、意思疎通の取れない利用者様に対しては表情や行動等から思いを汲み取れる様に心がけ努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の暮らしの中で、何か一つでもその人にやりがいがあるような役割を作れるように声掛けや促しをしながら対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の意見を大切にしながらも、季節毎に合った服装になるよう支援したり、御家族とも相談しながら配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備や簡単な調理、盛り付け、片付け等を手伝って頂きながら行えるように努めている。また、食べたいものを聞き、献立に加える工夫なども行っている。	職員は本人が出来る事を見極めながら、調理や後かたづけを見守り、ケーキバイキング、回転ずしなどの外食や、鍋料理、バイキング形式の食事など、楽しい食事に工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1000ml以上を目標にし、本人の思考を考慮した水分の促しや食事量の少ない・栄養状態の芳しくない利用者様に対しては栄養士とも相談し栄養補助食品の利用を見据えた支援をしている。食事形態も利用者様の様子や言動等を加味しながら都度変更等の対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声掛けをし、その人の能力に合わせた対応をしていますが、最後に口腔内に残渣物がないか確認をしながら、状態に合わせて協力病院である歯科医院に往診対応をお願いしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人が望む限り、または能力がある限りはトイレの使用を目指し、排泄チェック表やケース記録を通して個々の排泄パターンの把握に努め失禁が少しでも減りトイレでの排泄が出来る様な支援に努めている。	各トイレは広くて清潔感があり、車椅子対応も余裕があり、時間ごとの誘導や歩行介助でトイレでの排泄を促している。夜間は安眠を優先してポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促しや、体を動かす機会を設けている。状況に応じておやつにて乳製品を出す等の工夫や、どうしても時は医療機関と相談しながら対応を行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ利用者様の意向を大切に支援を心がけたり仲のよい利用者様と一緒にいる等の配慮は行なっているが、安全面を考慮し夕方以降の入浴は行っていない。	大型のタイル張りの浴槽内には数か所に手すりを取り付けて安全を保っている。職員は2名体制で週3回の入浴を介助し、利用者は仲良く同志で会話を弾ませて楽しく入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に休息の時間を設けたり、安心して睡眠が取れるように配慮しながら支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をいつでも確認できるようにファイリングしており、服薬内容が変更になった時には連絡ノート等を使用しながら職員間での情報共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに適した役割をお願いしている。また、レクリエーションやおやつ時等楽しめるようにお好みのものを把握しつつ支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事予定を作成、季節に合わせた行事を企画したり、その日の天候等を見ながら、気分転換にドライブに行く等の支援や御家族と一緒に外泊や外出できる機会を設けている。	春のお花見から秋の紅葉狩りに至るまで年間行事を企画し、外出を支援している。事業所裏手には芝生と遊歩道があり、遠出が困難な利用者はお花畑をながめて外気浴をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様全員ではないが、利用者様の希望により、小額のお金の管理を本人にお任せしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設に公衆電話を設置しており、自由に電話を掛けられる状態にしている。手紙のやり取りは現在行っている方はおられないが対応は可能です。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁画や玄関ホールを季節ごとに飾りつけを変更する事で利用者様に少しでも季節を感じてもらえるように工夫したり、利用者様同士が話をしながら一緒に出来る様な事を促しをしたりしながら対応しています。	玄関と事務室を中央に両サイドに各ユニットがある平屋造りの事業所内は、回廊型で全室床暖房が施され、トイレや浴室も広く、バリアフリーが完備されている。行事や外出時の写真や利用者の作品が飾られ、壁の装飾は季節感を表わしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室以外で1人になれる場所は無いが、（見守りで出来る位置で）他の人から少し離れた場所で過ごして頂くなどの対応や、気の合う方同士が話しやすい環境をつくる等の配慮をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用していたものを持参して貰い使用して頂いたり、本人の希望の物や必要な物は御家族と相談をしながら対応し、利用者様が過ごしやすい空間になるよう配慮している。	居室には大型のクローゼットと洗面台が備え付けてあり、家族の写真が飾られている。在宅当時の家具や日用品が持ち込まれ居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーになっていて、廊下やトイレ等にも手摺を設置し、安全に自立した生活が出来る様に配慮しています。また場所が分かりにくい所には表札や写真の掲示等を本人や御家族様の了承を頂きながら対応している。		